

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

237

史跡和歌山城保存修理事業

[長期総合計画]

分野別目標	1	安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
政策	4	観光の稼ぐ力の強化
施策	1	観光客受入体制の整備
取組方針	3	観光資源の魅力向上

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		商工費	
	項		観光費	
	目		和歌山公園管理費	
	大事業		和歌山公園管理事業	
	中事業		史跡和歌山城保存修理事業	

事業種別	継続		関連個別計画	史跡和歌山城整備計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	和歌山城整備企画課 山路 都子	435-1044
事業実施の根拠法令			関連課	文化振興課		

1 事業内容

(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要					
事業目的	和歌山城の史跡整備については、平成7年度に策定した「史跡和歌山城整備計画」を基本に、事業計画を作成し、史跡和歌山城整備委員会の意見や、国・県の指導のもと、保存整備を行っています。		史実に基づき和歌山城の復元整備を行う。				
事業内容		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	
		二の丸御殿遺構発掘調査報告書作成@西の丸西側石垣修理(調査)@西の丸庭園修復(地形測量)@史跡和歌山城整備計画見直し	西の丸西側石垣修理(施工)@大奥・能舞台の復元(構想)@天守閣耐震診断@天守台・岡口門附土塀石垣調査	老朽化した石垣、二の丸西部、二の丸の整備に向けて、石垣調査、発掘調査及び史跡整備委員会での協議を行っています。	老朽化した石垣、二の丸西部、二の丸の整備に向けて、石垣調査、発掘調査及び史跡整備委員会での協議を行っています。	老朽化した石垣、二の丸西部、二の丸の整備に向けて、石垣調査、発掘調査及び史跡整備委員会での協議を行っています。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	18,406	15,372	47,552	38,207	30,436	18,118	14,978	0	25,000	0	
伸び率(%)	210.2%	17.9%	158.4%	148.5%	△36%	△52.6%	△50.8%	△100%	66.9%	0%	
人件費	正規職員	21,301	20,824	24,168	24,008	24,056	24,216	24,296	0	24,296	0
	正規職員以外	6,513	5,762	4,948	4,857	6,403	6,403	6,403	0	6,403	0
	小計	27,814	26,586	29,116	28,865	30,459	30,619	30,699	0	30,699	0
国庫支出金	5,374	7,627	16,972	14,449	14,456	3,386	7,305	0	0	12,500	
県支出金	268	381	741	614	663	133	364	0	0	625	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	5,231	7,400	14,402	12,563	14,634	12,131	15,119	0	0	0	
一般財源(税等)	7,533	△36	15,437	10,581	683	2,468	△7,810	0	25,000	△13,125	
所要人数(人)	正規職員	2.68	2.62	3.03	3.01	3.01	3.03	3.04	0.00	3.04	0.00
	正規職員以外	2.43	2.15	2.15	2.11	2.56	2.56	2.56	0.00	2.56	0.00
主な予算内訳	西之丸石垣修理工事(14,950千円)・第16回全国城跡等石垣整備調査研究会開催事業(2,991千円)・史跡和歌山城第40次発掘調査(5,787千円)										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
調査場所数	箇所		目標値	1	1	1	1	1
			実績値	1	0	1		
			達成度(%)	100%	0%	0%	0%	%
史跡和歌山城保存整備委員会開催回数	回		目標値			2	2	2
			実績値			2		
			達成度(%)	0%	0%	0%	0%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				できない
				達成していない (70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	「史跡和歌山城整備計画報告書（平成28年度改訂版）」を基本に、事業計画を作成し保存整備を継続している。
見直し・改善内容	